補足資料(福岡SC)

若年学生修学継続支援拠点

目的：学生数が増加する若年学生の修学継続支援により、退学率を減少させ、卒業率を上げることにより、将来的な学生増に結びつける。

必要性：不登校経験者や通信制高校出身者など、多様な背景をもつ若年層が増加している。OUJでも若年学生が急増し、成人学生向けに最適化された従来のような修学支援では十分に対応できていない。全国規模で若年層の学びを支える基盤整備を行う必要がある。

参考として、３頁目以降に2025年10月に北京で開催されたAAOU-2025（アジア公開大学年次大会）での発表資料（日本語訳）の一部を添付します。

全国のSCに提供できること

1) 福岡SCでの若年学生修学継続支援の情報提供
2) 若年学生修学継続支援サミットの開催（希望するSC）
3) 全国のSCの若年学生支援に関する情報収集と整理および事例紹介
4) IR室と協力して全国のSCの若年学生分析の情報提供（情報提供と問題点抽出）
5) 退学者減少のための方策提案

放送大学 40th Anniversary
THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

発表のスライド（日本語版）抜粋版

Supporting Lifelong Learning: Strategies to Enhance Retention of Young Students in the Open University of Japan

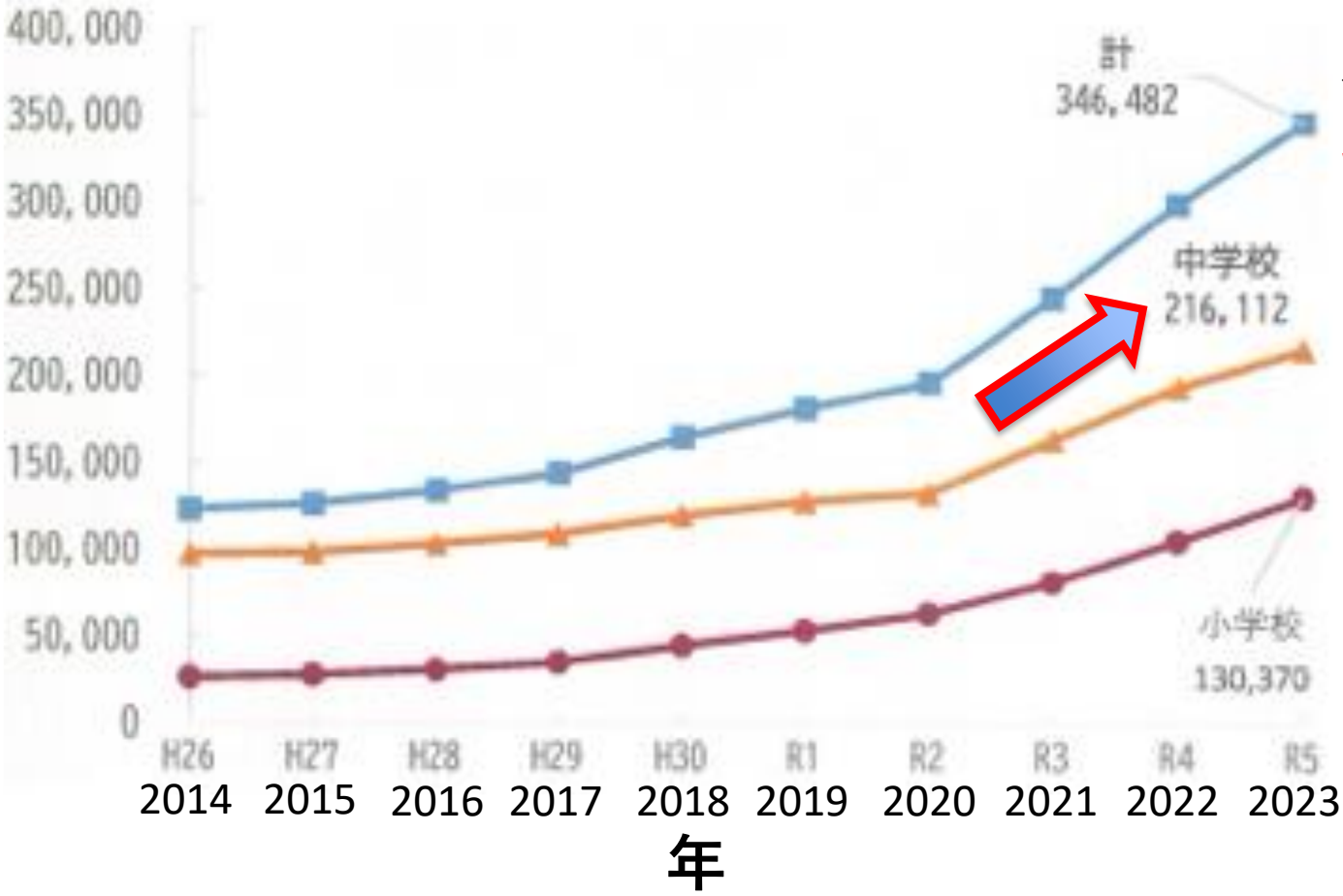
Yoshio Hisaeda, Shin-ichi Goya, Yasuhito Osanai,
Kiyoshi Tomimatsu, Yumi Kuroiwa, Toshiyuki Tanaka,
Kazuhiko Mizuno, Fumiko Ishii

The Open University of Japan

Fukuoka Study Center, Kasuga, Fukuoka, Japan

不登校

小学校および中学生の不登校児童数の経緯



合計
346,000人

中学校
216,000人

小学校
130,000人

＊文科省公表データより抜粋（2024年）

高等学校の不登校



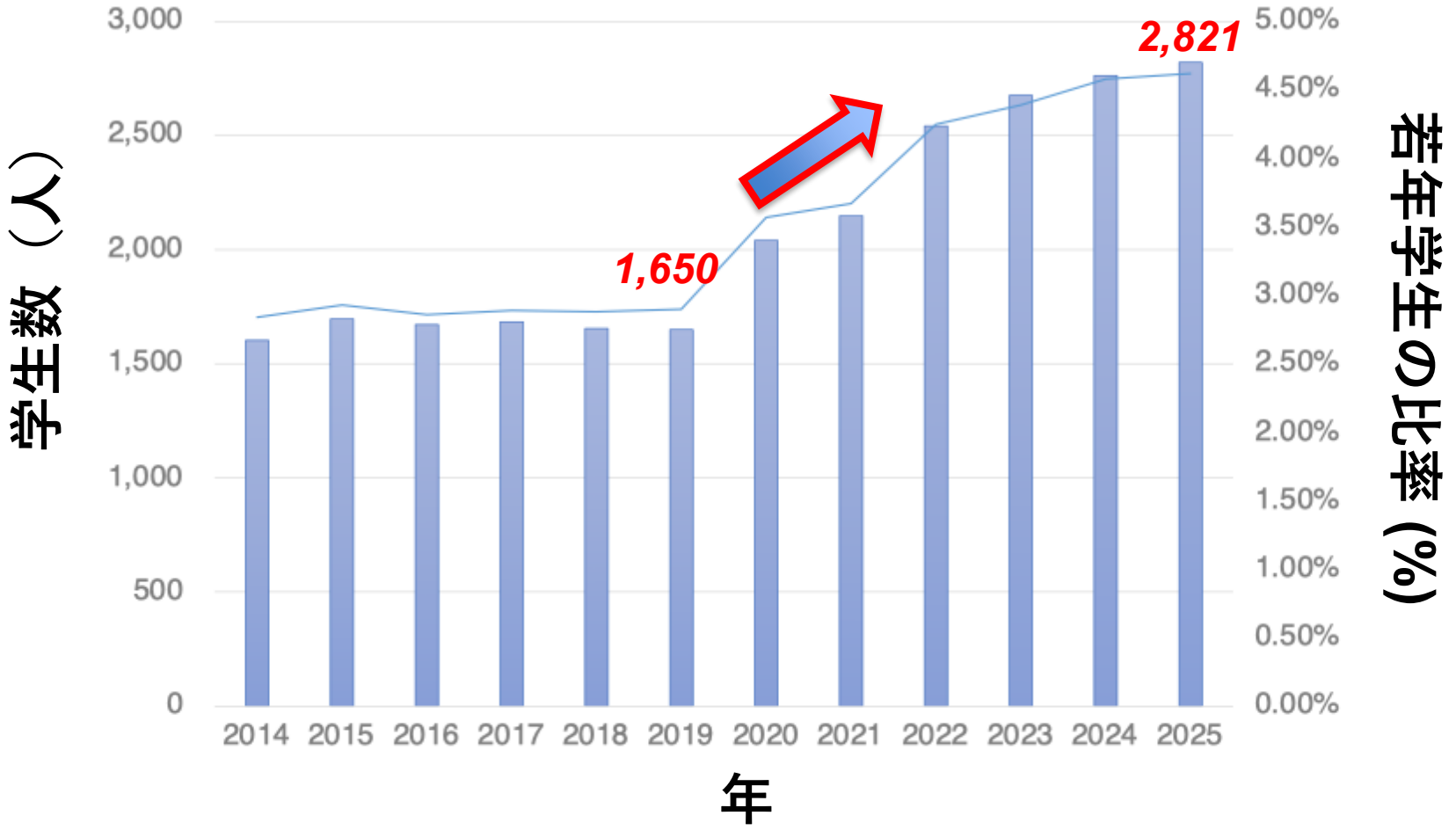
＊文科省公表データより抜粋（2024年）

放送大学の若年学生数

放送大学 THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN 40th Anniversary

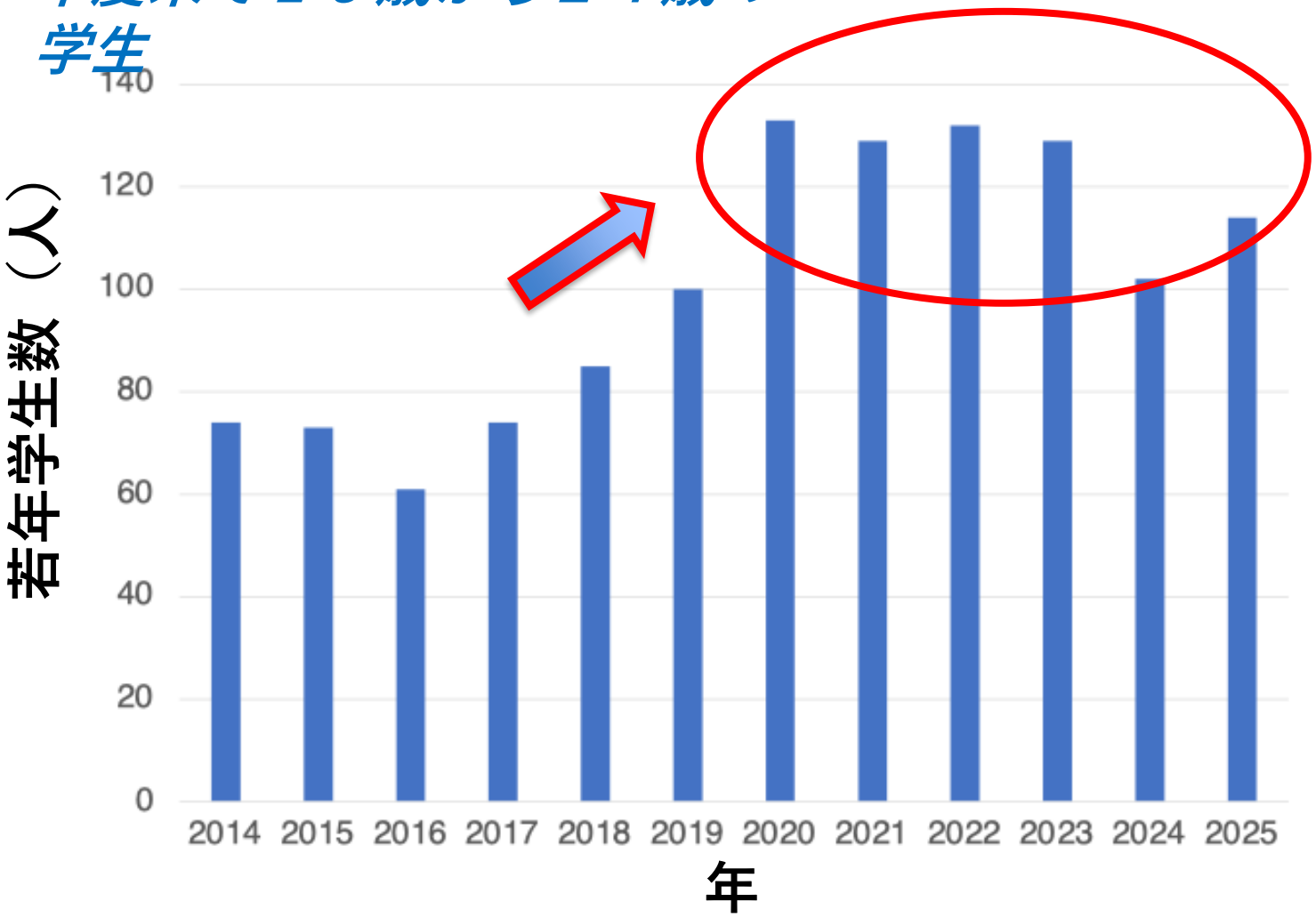
年度末で１９歳から２４歳の学生

近年は、40% 以上の学生が通信制高校からの進学である。



福岡SCおよび北九州SSの若年学生

年度末で１９歳から２４歳の学生

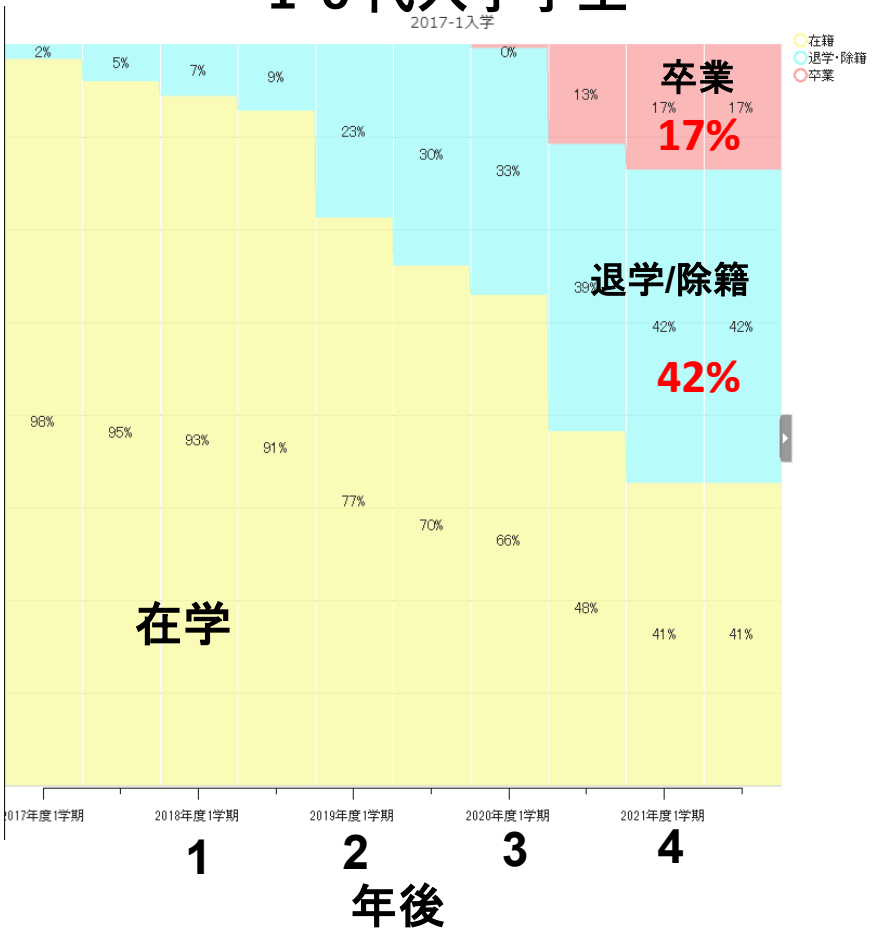


放送大学における卒業と退学の状況

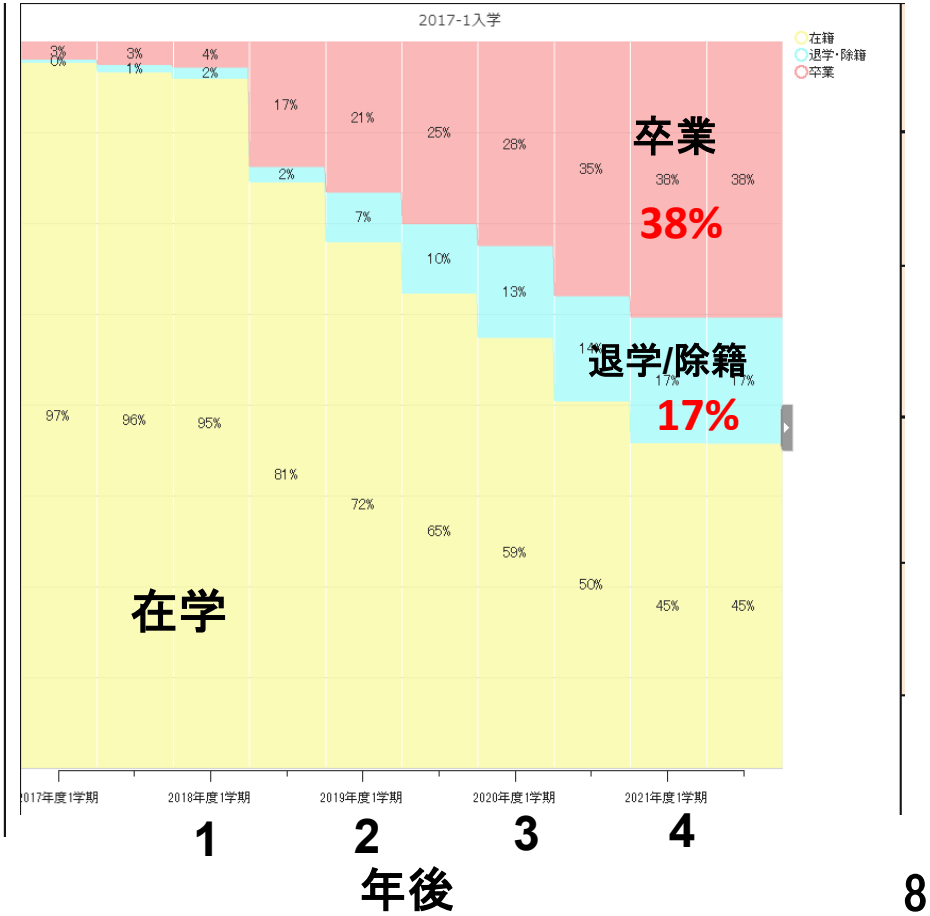
2017年1学期の入学者

Confidential

１０代入学学生



30代以上の入学学生



なぜサポートが必要か

・従来の支援システムはシニア学生を対象

・若年学生は種々の課題に直面

→ 学業面, 経済面, 社会面

【目標】退学を防ぎ、学位取得を促進する

学長裁量経費により4年間実施

5つの主要戦略

1. 専任の担当客員教員による直接的なサポート
2. LINEによる学生・教職員の連絡・交流の構築
3. 履修登録・単位修得状況および面談する学生の把握
4. 学生同士の交流を深める研修旅行の企画
5. 卒業生による体験共有座談会の開催

サポートを実践

- LINEによる定期的なメッセージ配信
- 「まなぴー会議」で学生サポートを自由討論

学習進捗状況の追跡

個別相談



履修登録と単位修得状況を確認し、面談対象の学生をピックアップ

個別面談から学んだこと

・学生は経済面、健康面、および基礎学力で障壁に直面しています。

・まずは学生の話を聴くことで、学生自身の課題を明確にすることができます。

・学生が計画を立て、前進できるよう促します。

モチベーションを高める研修旅行

2023：Yoshinogari Ruins (Saga)



2024：Geothermal Power Plant (Oita)



2022: いのちのたび博物館
2023: 吉野ケ里遺跡
2024: 地熱発電所
2025: 原子力発電所

体験を通して学ぶことで、協調性と探究心が育まれます。

卒業生による体験共有座談会

2023：Study Orientation by Alumni



2024：Graduate Experience Talk



2023: “学び方をまなぶ”座談会

2024:　卒業生による体験談

情報を共有し、自信とレジリエンスを育みます。

取り組みの成果

サポート対象学生：10代で入学した学生（合計146名）

4年間での卒業率：23%に上昇（17%から）

4年後の中退率：17%に減少（42%から）

若い学生が教育を継続し、卒業する確率が高まっています。

【今後必要な支援】

- 入学直後の個別オリエンテーション
- 若い学生向けの奨学金プログラムの強化
- 修学支援と接続した“準備段階のキャリア支援”

結論
なぜ、どのように、何を

なぜ：若い学生は従来の枠組みを超えた支援を必要としている。

どのように：信頼関係を築き、進捗をフォローし、学習とキャリアに関するガイダンスを提供する。

何を：個人と社会を強化する持続可能な生涯学習。